

第3回「マンション管理員検定」試験

705人が申し込み 合格率59%

一般社団法人マンション管理員検定協会(東京都中央区)がこのほど、9月23日に全国8会場で実施した第3回「マンション管理員検定試験」の合格者を発表した。それによ

ると、受験申込者数705人に対して416人が合格した。合格率は59%。3月に実施した前回試験と同様、受験者の約7割を50歳以上が占めた。

方式としたのは、「価格の透明性を確保するため」(同社)だという。

一般的に仲業者が行っている価格査定を業務から切り離れたことについて、同社は「何となく売れそでだから」といった値付けの根拠の曖昧さをなくすため」と説明する。

査定業務を受託する東京カンテイは不動産鑑定事業で培っ

同協会は、管理員の資質向上を通じマンション管理業界全体の水準の底上げを図る目的で10年に発足し、11年に第1回試験を実施。これまでの合格者は約1800人になる。試験問題は実務と法的知識、一般常識で構成される。受験申込者の年齢別内訳は、60〜69歳が42%で最も多い。定年退職後の再就職先としての需要が中心とみられ、

同協会によるとこの傾向は当初から変わっていないという。

一方で、「(同資格を)マンション管理士や管理業務主任者といった関連資格の「登竜門」に位置付けたり、すでに管理員として働いている人が知識の研鑽(さん)のために受験したりするケースが増えている」(日下部理絵理事長)。また、採用担当者の受験を推奨している管理会社もあるという。このほか地域別にみると、東京(54%)と大阪(22%)に次いで札幌(7.4%)の割合が高い点も特徴だ。

今後は、試験合格者を含む管理員と管理会社とのマッチングサービスの本格始動や、合格者同士の交流機会の創出といった事業にも取り組む方針だ。